

議事(1) 住民意向調査や団体等からの主な意見

意見のうち★マークは、計画検討委員会構成団体から寄せられたもの

1. 災害に強いまち	2. 賑わいのあるまち	3. 住み続けられるまち
<p>●建物の不燃化等</p> <ul style="list-style-type: none"> ★本町通りの延焼遮断帯化 ・隣地境界からの離隔も必要。 ・再建の際には消防設備やスプリンクラー設置の義務化 ★周辺の準防火地域でも道路拡幅を行い、防耐火性能のある住まい等に改築・回収を誘導する ★密集市街地解消など、被災エリア以外の防災対策 <p>●消防水利</p> <ul style="list-style-type: none"> ★大雨になると本町通り商店街の一部で排水の便が悪くなる場所もあるため、排水用途を兼ねた巨大防火対策用貯水槽を整備。 ・防火用水の巨大貯水槽設置（公園下活用） ・消化水路、消火栓、防災壁整備、家庭での初の期消火の充実 防災モデル市街地宣言のまちづくり（視察の受入による交流人口増） ・防火水路が必要。 ★奴奈川用水・城の川を消火用水として活用する ・奴奈川用水は常に水を流し、取水口から取水できるようにする。 <p>●オープンスペース・緑地帯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災拠点としての公園整備 ・防火対策として緑・木は重要。（椿は火に強い） ・イチョウの木は耐火性があるとのこと。イチョウの木があれば火をとめられたかもしれない。 ・大きな木が足りない。オープンスペースに樹木を植栽すると良い。 ・糸魚川独特の風向きに合わせた並木も必要。 ★防火樹のまちづくり（さざんか、椿、マサキ等） ★街の景観美と防火林の機能を両立する植栽と自然水利の活用 <p>●社会基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型の消防 自動車の入れる道路整備 ・ <p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ★地域の建築士、工務店や地域木材を利活用した災害に強い循環型のまちづくり。 ★復興視察を受け入れる防災モデル都市化 	<p>●周辺住民や市民が集まる機能（施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケット、日用品店など日常の買い物ができる店舗 ・医療機関、大規模老人ホーム等の誘致 ・住民、高齢者や子どもなどが気軽に集い、憩える場所 ・ショッピングセンターなどの大型商業施設 ・図書館、個人病院、商業施設などの複合施設 ・市役所の街なか支所の設置 ・図書館等、歴史民俗資料館、商工会議所の移設 ★文教施設、市民プラザ的な市民活動の場と行政機関の融合施設の街中設置（町作り会社(タウンセンター)的組織の設立） <p>●観光客など外部から人を呼び込む機能（施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> ★海の眺望を利用した施設の建設 ★300台規模の駐車場 ・採りたての魚介類が買える、食べられる施設（★海産物販売飲食施設） ・特産品、農林水産品を販売するなどの複合施設 ★国道8号線上に歩道橋を整備しアクセスする海岸展望台や安全な栈橋の設置 ・糸魚川真柏（盆栽）の美術館 ★加賀の井酒造や鶴来家を翡翠やジオパークをイメージできる中庭でつなぐ ★糸魚川海の駅(日本海に沈む夕日の見えるレストラン、観光案内所、鮮魚店、蟹屋、相馬御風資料館、駐車場) ・国道8号からの誘客を狙う「道の駅」 ・大規模ホテル（インバウンド、観光用） ・復興拠点として国営又は県営施設の誘致 ・大学、教育機関（研究機関） ★駅と海の間駐車場を整備、国道の自動車と駅の鉄道利用者双方の集客 ★生活商店街、観光商店街など商店街の目的別の区分け <p>●景観など（施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> ★北国街道の景観として雁木通りの再生（建築協定による外壁後退、屋根・外壁等の統一） ★防耐火対策を行った賑わいのある路地 ★各被災商店街で景観研究会的な組織を立ち上げ ★歴史のある魅力を感じる防災に強い和風建築と雁木再整備（当事者が主役の復興を支援） ・車の出入りに邪魔であるため、雁木は不要。 ・雁木（和風）は好まない。（建てたい建物に合わない。） ・前面を駐車場とする場合、雁木の構造が問題。 	<p>●共同住宅・集合住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢老人など、高齢者のための共同住宅 ・高齢者だけでなく若い夫婦も住み、交流できる住宅が良い ・1階に店舗、2階以上が住宅の共同住宅 ★一人でも寂しさを感じない近所のコミュニティが形成されていく住宅 ★利便性の高い駅周辺に、被災された方ばかりではなく、近隣住民や市内外からの定住を促進し賑わいをつくるために、単なる集合住宅ではなく、コミュニティを保ち、多くの方が集える安全安心できる場所を備えた住宅の整備が必要。限りある土地を有効活用するためにはマンション等の集合住宅も必要。 ★戸建て住宅エリアと中高層集合住宅エリアの設定 ★中高層共同店舗。上階に共同住宅と子供の遊び場や高齢者の運動施設等の市民が集える施設を設置 ・大規模海望マンション等の誘致（大手不動産業者との連携による人口集積策） ★日本版C C R C（高齢者の終末居住共同体） ★居住者の増加は街の賑わいに不可欠。近隣の買物環境が整備されれば居住者は便利で商人は経営が存続し共存関係

駅北復興まちづくりカフェおよび第3回庁内委員会の開催について（報告）

2017/4/3 定住促進課

第1回 糸魚川市駅北復興まちづくりカフェ

開催日時：平成29年3月20日 13:30～17:00 会場：ヒスイ王国館

参加者数：34名

内容： 駅北大火からの復興のまちづくりに伴う「まちの将来像」と「まちづくりのアイデア」をワークショップ形式で検討した。

結果概要：参加者から出された意見は大きく3つの将来像に集約することができ、それぞれを実現するためのアイデアも多数挙げられた。

＜将来像＞

＜アイデアの例＞

災害に強いまちが整備され、市民が経験を受け継いでいる。



道路・水路の整備、貯水池つき緑化公園、古い街並みとのエリア区分、防災パトロール、火祭りの開催、防災資料館、歴史研究、メモリアル本、体験学習冊子

糸魚川の地域資源を生かした取り組みにより、まちが賑わっている。



景観に配慮した街並み、個店を生かした商店街、新規出店の公募、駐車場整備、海山の物産を食べる・飲む・買う施設、夕日の見える道の駅、広域的PR活動

地域住民の交流の場が機能し、顔の見えるコミュニティが形成されている。



まちなか公園、祭り広場、屋根付きBBQ広場、観光客との交流の場、コミュニティセンターと食の複合施設、冬場対策の屋根と囲い（図書館、児童施設等）

第3回 糸魚川市駅北復興まちづくり計画庁内委員会

開催日：平成29年3月24日 10:00～12:00

内容： まちづくりカフェの結果を受けて、「人」を主語にしたさらに具体的な将来像と、そこに付随する方策アイデアの整理を行った。

結果概要：将来像については人を中心とした明確なイメージが浮かび上がってきた。方策アイデアについては引き続き整理と優先順位の付加が必要である。

＜人を主語にした将来像の例＞

誰が	どうしている／どうなっている
地域住民（全般）	安心して気兼ねなく暮らしている／活発に交流している／まち中でくつろいでいる／生涯スポーツを楽しんでいる／防災意識が高い／災害時は協力して活動している／災害時公開生放送を聞いている／地域の歴史を伝承している
若者	消防団に加入している
高齢者・子ども	集って話をしている／見守りと声かけがある／世代間で交流している／防災対策や災害時対応を理解している／安全に避難誘導されている
働く人	安心して働いている／ランチや買い物をしたり、仕事後に居酒屋で飲んでいる
観光客・訪問者	糸魚川の海や山、こだわりの食、買い物を楽しんでいる
自治会・消防団	地域活動を行っている／災害時に素早く動く／安否確認をする

要 望 書

1. 街なかの移住勧奨及び整備

利便性の高い駅周辺に、被災された方ばかりでなく、近隣住民や市内外からの定住を促進し賑わいをつくるために、単なる集合住宅ではなく、コミュニティを保ち、多くの方が集える安全安心できる場所を備えた住宅の整備が必要だと思います。限りある土地を有効活用するためにはマンション等の集合住宅も必要だと思います。

2. 海の眺望を利用した施設の建設

糸魚川は海の眺望に優れた場所であり、新幹線と8号線の誘客を望めます。特に夏の夕日などは観光客をひきつける魅力があります。そこで、核となる施設を建設し、地元の海の幸、山の幸の販売コーナーを取り入れ、地元住民も普段から利用できるようなミニスーパーの併設をお願いいたします。合わせて駐車場の完備もお願いいたします。

3. 防火対策のための貯水槽の整備

糸魚川駅周辺では火災が起きると消化するための水が不足がちになります。用水路の整備は出来ていると思いますが、水をためておく場所が少ないと思われます。また、大雨になると本町通り商店街の一部で排水の便が悪くなる場所もありますので、排水用途を兼ねた巨大防火対策用貯水槽の整備をお願いいたします。

個店の魅力アップ女性の会 会長 磯貝正子

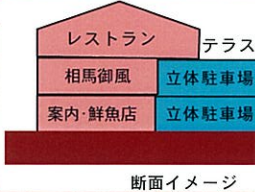
駅北復興まちづくり計画提案 (H29. 3. 27)



中高層住宅イメージ



夕日の見えるレストランイメージ



無料駐車場、観光案内所、蟹屋、鮮魚店
日本海に沈む夕日の見えるレストラン
テラス、相馬御風資料館



遊歩道イメージ

道の駅から本町通りへ誘導する遊歩道
加賀の井さんの施設に立ち寄る事が出来る

循環型のまちづくり
地域の建築士・工務店や地域木材を
利活用した災害に強い循環型のまち
づくりを提案します。
被災地を優先的にまちづくりを行っ
た後は、周辺準防火地域も道路拡幅
を行い、防耐火性能の有る住まい等
に改築・改修誘導する

本町通りの延焼遮断帯化について
被災区域全体が消防力UPや準防火
地域として防火性能の高い区域とし
て復興できる。
防火規制の強化により建物が建た
ない通りとなる可能性もある。
関係者の合意形成・詳細な検討必要

北国街道の景観としての雁木通り再生
建築協定により外壁後退線、屋根
外壁、床材の色を統一



雁木通り再生イメージ

中庭に面する中高層共同店舗
上階に共同住宅と子供の遊び場
ミニ図書館、高齢者の運動施設
等の市民が集える施設を設置



屋根付き中庭イメージ

消防施設の復興
消防力の向上のため
暗渠となっている奴
奈川用水・城の川が
十分な水量が確保さ
れた消火用水として
使えるよう手立てす

防火樹のまちづくり
(さざんか、椿、マツ等)

防耐火対策を行った賑わいある路地
路地の軸線は本町通りの中庭を貫通し
加賀の井酒造の正面玄関に到達、路地
は歩行者専用道路とし、石畳み舗装
B・Cエリアに一体感を持たせる
路地に面して飲食の出来る市場
路地の中間には中庭を配置し地元農家
の産直品を販売する露店市場

20m 路地イメージ

- 低層住宅ゾーン
- 中高層住宅ゾーン
- 商業ゾーン
- 駐車場
- 緑化遊歩道
- 道路(6m以上)

糸魚川商工会議所 復興まちづくりビジョン策定特別委員会
第一次提案

糸魚川商工会議所
復興まちづくりビジョン策定特別委員会
委員長 山岸美隆

糸魚川商工会議所では、中心市街地の復興について商工会議所としての提案を取りまとめる「復興まちづくりビジョン策定特別委員会」を設置し、3月6日の第1回委員会より5回の委員会を開催して、被災者や被災事業者の早期復興、20～30年先を見据えた賑わいの創出、防災面で安全な街づくり、市の復興まちづくり計画との連動などについて協議を重ねて参りました。

この度第一次の提案を取りまとめましたのでご報告いたします。

平成29年3月30日

糸魚川商工会議所
復興まちづくりビジョン策定特別委員会

非常事態に対応する組織体制の強化

糸魚川商工会議所は、今回の駅北大火で被災した事業者並びに被災市民に寄り添った応援を実施するため、非常事態と考え、総合的に対応する体制を検討したく行政機関のご協力をお願い申し上げます。

先ずは一日も早い復興を実現するため、市民、行政、会議所が三位一体となり、業務上秘密を守る専門家(弁護士、税理士、街作りの専門家)をアドバイザーとした「個別相談プロジェクト」の設置と実施を提案します。

実施に当たっては、様々な個々の諸問題を解決するため、出張型相談で能動的に対応・活動する部門の新設と担当者の設置を提案します。

被災エリアには本町通り商店街と広小路商店街の二つの商店街が立地し、業種や組合員数、法人格や会の財政力など商店街ごとに抱える課題が異なることから、各商店街の事情に配慮し寄り添う応援態勢を整えますので行政機関のご協力をお願い申し上げます。

復興に向けた活動を各商店街が能動的に行えるよう商店街に寄り添った応援体制を敷き、被災前以上の街中の賑わいを取り戻せる応援、支援体制を構築します。

本町通りと広小路の復興を優先しつつ、広域的には駅前通り、中央通り、白馬道りの各商店街と連係して様々な賑わい創出イベントの運営を担当する部門を立ち上げ行政機関、市民団体等との連係を強化します。

また、その部門では広域的な調整力を担い、廃業や移転で減少した個店の代わりに復興エリアで創業、起業、移転開業したい方々に対応し、不足業種を補いバランス良く配置するテナントミックスの実施を支援しますので行政機関のご協力をお願い申し上げます。

1. 安全で安心な「災害に強いまち」の実現

より安全で快適な生活、住みたい訪れたい街づくりのために主体的に行動する役割分担と担当者、活動内容を明確にして、復旧と復興に立ち向かい未来の糸魚川に資する街づくり部門が必要です。

防災メモリアル公園化を提案します。防災機能として街の景観美と防火林の機能を両立する植栽と自然水利の活用を検討します。

被災エリア市民、事業者には行政や消防署職員を講師に消防法を研究し、耐火性の高い復旧住宅、消防車が活動出来る道路幅や防火施設の必要性を理解して街の再編協議に参加します。

街なか全域を考えた防災の街作りが必要です。被災エリアの復興が最優先ですが、市の資料によれば被災地約 4ha に対して周辺地域約 17ha と被災してないエリア約 76%の密集市街地解消など、被災エリア以外の防災対策も必要と考えます。

街なか全域の防災力を強化した復興視察を受け入れる防災モデル都市化を提案します。

行政機関では、被災市民の様々な個々の諸問題を解決するための復興生活再建部の新設を提言します。

2. 賑わいのあるまちに向けて

復旧と復興と賑わいある街なか再整備を考慮すると、いずれにしても相反する事案が想定されるので、調整機関や担当者が必要と考えます。行政機関のご協力をお願いします。

糸魚川駅から徒歩 3 分の海岸部周辺での活魚料理や炉端焼きなど海産物販売飲食施設を集客施設に提案します。

商工会議所、青海町・能生商工会の調整で、施設や商品が重複しないよう配慮した特徴ある再整備を研究し提言します。

各被災商店街で景観研究会的な組織を立ち上げ、今後の糸魚川の街なかを創造する提言団体として積極的に意見していただきます。本町通り 商店街は、歴史のある魅力を感じる防災に強い和風建築と雁木再整備で観光に資する街作りを進めるなど当事者が主役の復興を支援します。

街なかに人を集める手段として、集客の受け皿となる 300 台規模の駐車場の設置を提案いたします。

加賀本陣、鶴来家を翡翠やジオパークをイメージできる中庭でつなぎ観光型として再整備しつつ、周辺の各事業者が単独でも観光型に連動して営業活動できる整備を提言します。

「住みたい街なかに必要な生活商店」「賑わいある観光商店」と商店街の目的別の分けを提言します。例えば、本町通りは景観を活かした観光商店街、広小路通りは飲食店の多さから生活商店街として飲食店を重視した再編を提案します。

駅より徒歩 3 分の日本海活用で、国道 8 号線上に歩道橋を整備しアクセスする海岸展望台や安全な栈橋の設置を提案します。栈橋は、観光栈橋として海上散歩、釣り栈橋、夕日スポットなど多様な活用方があり集客が期待できます。栈橋へ誘導するには駐車場の整備が不可欠です。

駅と海が徒歩 3 分のコンパクトな地形を活かし、駅と海の間には駐車場を整備、国道の自動車と駅の鉄道利用者双方の集客を提案します。

相馬御風、翡翠のストーリー、歴史民俗資料館、図書館、紅梅文庫、学習施設などの文教施設、市民プラザ的な市民活動の場と行政機関の融合施設の街中設置を提案します。

複合施設の規模や敷地面積の都合により高層化の必要ある際は、他のテナントを誘致するなど経営の安定化を図り、商工会議所の移転先として検討も可能です。また、実施する体制として町作り会社(タウンセンター)的組織の設立を関係者と協議します。

被災エリアでは、街作りのために必要な用途の変換を協議し、円滑に進め復興に資する土地が必須だと考えます。

3. 住み続けられるまち・便利なまちに再編する

高齢者が安心して暮らせる安全な生活環境、一人でも寂しさを感じない近所のコミュニティが形成されていく住宅を提案します。

日本番 CCRC の研究会を提案します。

核家族化や単身世帯の更なる進展、20～30 年先の高齢者の増加を考えればニーズが無いとはいえない施設につき、運営に継続性があり 20～30 年後の施設処分も含めて採算性があれば有望な施設です。

高齢者支援住宅、若者単身者アパート、若者世帯住宅の整備を提案します。

居住者の増加は街の賑わいに不可欠、近隣の買物環境が整備されれば居住者は便利で商人は経営が存続し共存関係となります。

街なかに人を集める手段として、集客の受け皿となる 300 台規模の駐車場の設置を提案いたします。

平成 29 年 3 月 21 日

糸魚川市

市長 米田 徹 様

NPO まちづくりサポーターズ

会長 永江 善昭

復興施設活用のお願い

この度の駅北大火の復興に向け、市長様をはじめ関係する皆様から懸命なお取り組みを賜っておりますことに心より感謝を申し上げます。

私たち NPO まちづくりサポーターズとして、この大火からの復興に微力ではありますが力を尽くして参りたいと考えております。

被災地は過疎の進行が早く、人口、世帯数ともに旧糸魚川地域平均を上回っています。旧状を復してみても相変わらず展望の拓けない中心街区です。なによりも被災地を含めた口の字全体を活性化視点として、どんなまちづくりを推し進めるのか、明快な復興テーマが求められています。

取り急ぎではありますが、会員の復興に対する意見や希望を下記の通りまとめました。ご専門の皆様から綿密なご計画をご立案いただけることとは存じますが、私ども会員の考え方や意見を列記しましたので、復興施策に活かしていただければ幸いです。

記

1. まちの復興について

- 被災地周辺の人口・世帯を増やすためには、そのエリアが人を引き付ける魅力を持つことです。安全で楽しい市街地ならではの商業集積や生活環境に優れたまちには、自ずと人が集まり更には**移り住む需要**も生まれます。

被災地は、市の中心部にありインフラや交通の利便性に優れており、**集客施設の整備や人を呼び寄せる環境を整える**ことで糸魚川市の中心に相応しいまちが再興されます。(修復型ではなく、復興型基本構想を)

- 被災前より人口、世帯、商業集積、コミュニティ施設の増大をはかるため、「街なか誘致」の専担部署（人が来る、人が住む特化チーム）を早期に創設。

2. 防災関係

- 大型の消防自動車の入れる道路整備
- 防火用水の巨大貯水槽設置(公園下を活用)
消火水路、消火栓、防災壁整備、家庭での初の期消化の充実
防災モデル市街地宣言のまちづくり(視察の受入による交流人口増)

3. まちづくりの手法

- 土地利用計画の早期策定の樹立(短中長期に向けた施設地の確保)
- 住宅、商業などゾーンに分けた整備
- Aゾーン(住宅地)は海を活かした誘客施設に特化
- 買物、憩えるスペースを備えた商業と住居が共存するまち
- 「みいちゃん通り」をコミュニティ道路として整備、その周辺に憩いの店舗配置
- 街なか「核」の配置
- 国道8号からの誘客を狙う「道の駅」の建設
- 大規模な駐車場
- 大規模公園兼イベント広場建設
- 海に向かう道路拡張(旧大久保～糸魚川小学校)
- シンボリックなタワー建設(頸城連山から能登半島までの眺望が活用)
- 地域住民、市外支援者、行政、関係機関、関係団体等による「人が創る街づくり」「街を創る人づくり」の組織創設

4. まちなか拠点施設の誘致、建設

- 復興拠点として国営又は県営施設の誘致(中長期的目標)
- 市役所の街なか支所の設置
- 図書館等の移設
- 歴史民俗資料館の移設
- 商工会議所の移設
- 医療機関の誘致
- 大規模老人ホーム等の誘致
- 大規模海望マンション等の誘致(大手不動産業者との連携による人口集積策)
- C C R C(高齢者の終末居住共同体)
- 大学、教育機関(研究機関)
- 大規模ホテル(インバウンド、観光用)

■ 糸魚川市駅北復興まちづくりカフェ 〈第1回／2017.3.20〉

●意見のまとめ【セッション1】まちの将来像を考えよう

「よのなかセッション」での絞り込み		該当意見
地域住民のつながり・対話がある まちなかで集える・交流できる	■コミュニティのあるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちに愛され続けるまち。 ・笑顔があふれるまち。 ・住んでいる人でコミュニティを。 ・地域の人がのんびりくつろぎお茶をしている。 ・開放的で誰もが入りやすい集える場がある。 ・茶飲み話をする場。 ・近所の人顔が見えるコミュニケーションがとれる場所。 ・集合住宅は無機的でなく、皆が交わるデザイン仕掛けで。
	■子どもから大人まで集まれるコミュニケーションスペースがあるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・家族がここにいる。 ・子どもからお年寄りが集うまち。 ・子どもからお年寄りまで安心して暮らせる安心なまち。 ・こどもからお年寄りまで多世代が集うまち。 ・子どもが住みたいと思えるまち。 ・子供達の教育環境。 ・子どもがまち中で遊べる ・子どもたちが集まるまち。 ・子どもが遊べる、集まる。 ・子供が遊べるまち。アスレチックなど親子で遊べる処。パフォーマンスが出来る処。
	■みんなのよりどころになる公園のあるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが新しい公園で遊んでいる。 ・用事なくても集まれるみんなが笑顔になるたまり場がある。
	■住民が「まちへ出る」「まちを歩く」ためのしかけがあるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・まち中の公園で市民がくつろげる（いこい） ・公園のある町（休息の出来る場） ・新幹線の駅から直結した公園。 ・町中を自由に歩いて、話ができる。
	■まちの内外の人々が垣根を越えて集まるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・住民と来訪者が糸魚川の宝を語り合える場がある。 ・市内、市外の方が素敵、幸せと感ぜられる街 ・市民と観光客、来訪者が交流をしている。
歩く人々が	■災害に対応した公園、路地等を観光客も市民も散策しているまち	<ul style="list-style-type: none"> ・人々が（市民・観光客）路地を散策している。 ・観光客も市民も散策している。公園・路地・防災も意識。
災害に強く、受け継ぐ	<ul style="list-style-type: none"> ■災害に強いまちづくり～防災センターの建設 ■災害を伝えるまち～災害学習の場がある・秋葉社の祭りの復活 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害を伝承→秋葉神社は実は防災のお祭りをしていた。→10月に火の祭りを開催。 ・災害をのりこえたたくましいまち。災害学習の場、先進地として。 ・昔ながらの伝統を大切にすまち。 ・子どもたちに歴史や過去の記憶が伝わっていく。 ・伝統の祭りを活かすまち。 ・火災に強いまちづくりの青写真を。 ・防災センターの建設 ・海水を引き込んだ釣り堀（災害にも）
買い物がしやすい	■駐車場の整備等、買い物に便利なまち	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人が商店街で買い物をしている。 ・飲食と買い物が出来る所。 ・買い物に便利。 ・買い物が便利な街ー駐車場の位置、路駐 ・車を留めて商店で買物ができる。

「よのなかセッション」 での絞り込み	該当意見
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">糸魚川の資源（魅力）を生かした取り組みや 施設整備で内外から多くの人々が来訪する</p> <p>■地酒やカニを食べる場所等、地域の魅力を発信して賑わいのあるまち</p> <p>■人を呼び込み糸魚川の魅力を楽しめる「道の駅」がある</p> <p>■海の幸・山の幸を生かした賑わいのある稼ぐまち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民（地域）で賑わうまち。 ・外からの人（観光客等）で賑わうまち。 ・人々が行き交う街。 ・街を歩く人がいろいろのお店を歩き回る仕組。 ・若い人がやって来るようなおしゃれな街並みと、イルミネーションなどで夜もにぎわう仕掛けをつくる。 ・若い人たちが商店街で買い物を楽しんでいる。 ・学生がたむろできる。 ・住民のスポーツの場、文学の場－FMM、図書館 etc ・住民がマリン・山－あそびの場で集んでいる。バーベキュー広場！ ・観光客が見学したり、体験してにぎわっている。 ・観光客がここにしかないものを見学したり体験して賑わっている。 ・海水浴などのレジャーで観光客がにぎわっている。 ・観光客がカニを食べている。 ・同じ趣味を持った人が広場に集まってイベントをしている。 ・道の駅 ・商業者が自分のお店を盛り上げている。 ・食堂が平日も混んでいる。 ・飲み屋が繁盛している。 ・海（と山）景観 ・山々の景色と日本海に沈む夕日をながめる場所がある。 ・夕日の観える糸魚川道の駅構想。 ・水と親しみふれあえる空間がある。 ・海岸の利用フィッシングパーク、海水浴の実現を。 ・海を生かした観光施設、つり・水遊び・荒波体験等 ・観光客、子どもが海辺で遊んでいる海にふれる公園。 ・糸魚川の大地と海、ジオパーク・観光・祭り・神楽・飲食を回るツアー ・糸魚川のジオパーク。 ・ジオパークのシンボルとモニュメントを駅前に作り、イベントをする。 ・ジオパークと祭りのイベント開催と案内。 ・糸魚川の海・山の景色を活かして眺める・遊ぶ・食べる・飲むなどの場所をつくってお金を稼ぐまちとする。 ・特産物が買えるまち。 ・シーフードで稼ぐまち。 ・海山物と地酒のイベントをする。 ・地酒やカニを食べる場所に来ていただく。 ・酒五蔵飲み比べ。 ・市外の人々が糸魚川を訪れたいと思うような材料が必要→駅前通りに城の川を復活する等。 ・個性的な地方都市 ・中心市街地、歴史的にも賑わい。 ・町の特色のある文化・歴史 ・歴史的建造物が残る、情趣あるまち並み。・飲食エリアを区分しゾーン化して集客する。（エリアマップ） ・来る衆のにぎわいをおった衆主体で作る。古い街並み、糸魚川らしい商売。冬の波も売り物に。 ・鉄道と自転車を楽しむまち。 ・地域の魅力を発信して。 ・商店街の近くで住み、商いをしている。 ・市の玄関－R8、新幹線。
<p>その他の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大火前から地域内にいた方々の気持や思い。 ・長く続くこと。 ・就職先（仕事場） ・糸魚の賑わいのため、糸魚川－松本連絡道路の早期着工を。

●意見のまとめ【セッション2】将来像を実現するアイデアを考えよう

集約	該当意見
<p>■災害に強いまち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道路、公園、水路が整備されたまち ・火災対策にも使える貯水池を中心とした緑化公園を造る ・公園を含め防災に強い町づくり～古い町並み（再現）と準防火地域の商業地域と飲食地域と住居系のエリア区分 ・経験に基づく独自の防災体制（システム）の確立～海水活用の消防体制の確立、防災パトロール隊の結成と活動 ・防火用水の確保 ・みいちゃん通りの川の活用 ・市民のための重点防災機能 ・防災として成人男性を5年間消防団員にする ・市民が皆防災リーダー
<p>■災害の伝承</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・秋葉神社と水前神社の防火祭りを12/22の防災の祭りに（ミュージカル仕立てでも） →川流れまつり ・災害の伝承体験学習するお祭りとメモリアル残せる場所（広前） ・糸魚川のまち中の歴史・発展調査研究 ・糸魚川災害の歴史調査、ジオ的調査 ・北陸新幹線沿線の各駅に糸魚川で行われるイベントの告知 ・災害に（から）学ぶ、伝える資料館 ・災害の伝承を歴史的な祭りと合わせて後世に残していく ・火、津波、地震の体験学習冊子 ・災害を忘れないメモリアル本
<p>■まちなみづくりを進める</p> <p style="text-align: center;">商店街再生</p> <p style="text-align: center;">歩けるまち</p> <p style="text-align: center;">配置計画</p> <p style="text-align: center;">駐車場</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・街なみ景観を大事にする（海や山を材料に／見て散歩できる）。 ・京都の様な基盤の目の区画整備。道路幅員と水利 ・公共施設と昔の街並みの融合する。 ・棟続きの建物の再建築のルール作る（ふるさと納税でガンギ用地を買収し復興再建していただく） ・駅前通りに域の川を復元する ・道を一方通行にレトロ感 ・昔の街並み（銭湯） ・大きな拠点よりも小さな個店の集まりであることが大事 ・小店舗が集合した街並み ・市外の人による商店開設 ・新規出店も公募する（市外の方大歓迎→新しい感性！） ・年に1回白川郷みたいに出水パフォーマンスする ・本町通りをドーム型にしコミュニティの出来る町 ・加賀の井の早期の復興→加賀の井を核にしての誘客作戦 ・気軽に立ち寄れる店、場所 ・商店街という特徴がら歩いて楽しむ。（買い物、食べ歩き） ・メインストリートにイルミネーション。老若男女が安全に歩ける。 ・老若男女、地域の住民のあたたかい雰囲気を感じられるまちなみ。歩いていて楽しい。 ・散歩できる街なみ ・歩けるスペースの確保、バリアフリー ・町の中を歩きどんな所があるか ・道路網、駐車場、公園の配置計画（防災）（巡回） ・拠点施設と駐車場の決定（道の駅）（海望食堂） ・街の中の空き地の把握をして、空間を作り出す（防災、公園、駐車場） ・換地の推進 ・集合店舗および集合住宅 ・広い道路 ・広い駐車場 ・駐車場をまとめ集約し観光バスも入れるようにする。祭りも見込して。 ・分散された駐車場をひとまとめにし、広い駐車場をつくる。公園も併設させる。 ・観光バスが止められる駐車場を造る

集約	該当意見
<p>■交流の場づくり</p> <p>■稼ぐ拠点づくり</p> <p>道の駅づくり</p> <p>海の利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント広場、ステージ、公園、トイレ、仮設店/舗 ・まちなか公園、緑があって安らぎの空間。地区の行事含むイベントスペースにも。イルミネーションにも ・祭り広場！ ・屋根のあるBBQ 広場 ・みいちゃん通りの語らいと交流活動の場の創設 ・市民が集える場と観光客が来る場が併設されている。 ・地域住民と来訪者が交流できる複合施設（駐車場、公園、食商、湯、シンボリックな） ・コミュニティセンター的施設と糸魚川の味わい施設の複合施設をつくる（にぎわいと若い人の職場づくり）。 ・冬場を考えた屋根、囲いが必要（図書館、児童施設） ・集まる、にぎわう、つながるなんでもいいからお金がおとせるまち ・食ベル、飲む、買う施設を建てる。 ・海、山の物産を集め販売 ・糸魚川にしかない酒・歴史などココにしかないものを展示してる ・地元産材を味わえるお食事どころ ・観光客、外の人を集める ・拠点となる観光施設（稼ぐ、体験、見学） ・道の駅を含め観光客の集める場所（イベント広場、ステージ、公園、トイレ、仮設店舗） ・中庭のある複合商業施設 ・城、川の河口に海に親しみながら山をながめる施設をつくる（海水利用、消化施設） ・有名な駅弁の開発 ・イベント数多く人を集める ・稼ぐエリアとそれ以外の区分け ・国道沿いに道の駅をつくり、国道からは車が入り、駅からは人が来るようにする ・8号線沿いに大規模な道の駅をつくる。市内外及び中国・韓国の観光客も呼び込む ・場所の選定、用地確保 ・社会実験 ・駐車場、図書館児童施設、食・商・土産、湯・銭湯、公園、立橋、自然体験 ・海の幸、山の幸が食べられる食堂がある ・夕日の観える糸魚川道の駅構想 ・道の駅を盛土し海もアルプスを展望できる、オオッ！と驚く景観にする（例：新潟の県民会館前） ・日本海「渚」の再生・海岸の利用（海水を引き込む／能生マリンドームのように／魚釣りフィッシングセンター等／ヒスイ海岸、姫川、石ひろい） ・海水浴場等の海のレジャー施設の充実
■伝統の継承	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティといえば“祭り”。地区の伝統行事の継承を支援する仕組みづくりが必要
■道路整備	<ul style="list-style-type: none"> ・松本糸魚川高規格道路の早期着工で人を糸魚川へ（新潟←→糸魚川鉄道） ・駅通路の延長
■情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの案内を広域的にして、新幹線等の利用と合わせてすすめる ・新幹線糸魚川駅 R8 沿い（道の駅）からの PR（情報）
■人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの仕掛人 ・賑わいづくりのプレーヤーは誰が担おうか ・行動する市民 ・協力する市民
■事業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なアクションプラン ・審議会でなく住民主体の協議会を設置して推進する ・国の都市区画整理事業の認可をまず先に受ける。 ・国、県からの多大な支援をうける（モデル化）
■雇用の場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人材を糸魚川にひきとめる職場作り